平成２１年１２月　９日

ニュースレター

いりおもての森から

林 野 庁　九 州 森 林 管 理 局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平 成２１年１２月 発 行　№２２号

イリオモテソウ

大原中学校、船浦中学校の「西表島横断」を支援

１１月３日（火）に西表島の大原中学校及び８日（日）に船浦中学校が、それぞれ西表島の横断を行いました。

浦内川の船着場に集合

大原中学校については、当初７月５日（日）に計画されていましたが、悪天候のため延期され、この度実施されたものです。当センターは、当初計画の事前調査（６月２７日(土)）、事前学習会（７月３日(金)）及び今回の事前調査（１０月３０日(金)）の支援を行ってきました。当日は曇天で、しかも北風が強く吹き、今シーズン一番の冷え込みとなりました。大原中学校を早朝６時４５分に出発、浦内川船着場から遊覧船に乗船し軍艦岩まで３０分。その後は登山道をひたすら歩き、途中、西表島が誇るマリュゥドウの滝、カンピレーの滝を眺め、昼食地点のイタチキ川合流地点には１１時に到着しました。一部の健脚組はマヤグスクの滝まで足を伸ばし、１２時には登山再開、終点の大富口には１７時前後に相次いで到着、「出迎え隊」のお母さんたちから温かい祝福を受けました。

遊覧船で軍艦岩へ

軍艦岩から横断開始

渡河はロープを握って

足元が滑ります

小川で休憩

また、船浦中学校の横断日は、晴天でやや温かい天候でしたが、林内は涼しく絶好の横断日和となりました。浦内川船着場に全員が集合し、遊覧船で軍艦岩に到着。班編成後に出発し、マリュゥドウの滝、カンピレーの滝までは順調に進みましたが、昼食地点のイタチキ川合流地点には予定時間を少々遅れての到着となりました。昼食後出発し、終点の大富口には、予定時間をかなり遅れて到着しましたが、全員無事に踏破に成功し、出迎え隊の祝福を受けました。終点には美味しいおにぎりが準備されており、空腹も満たされ満足の一日となりました。

当センターはそれぞれの横断で先頭及び最後尾などを担当し、全員ケガもなく無事踏破することができ、それぞれの中学校の先生方及び保護者の皆さんから大変感謝されました。

小川で水分補給

終点までもう少し

終点：大富口

終点：大富口

ＪＩＣＡ研修生が来所

１１月２日（月）、西表島の森林の生態等について学習するため、ＪＩＣＡ研修生１１名と、引率者及び通訳の２名、総勢１３名の訪問を受けました。

当日は、石垣地方合同庁舎の会議室にて、西表島の森林、国有林の保護林制度等について説明しました。

研修生からは、地球温暖化に伴う海面上昇はないのか、ギンネムの抑制はなぜ必要なのか、マングローブ林の施業は行わないのか、絶滅危惧種の保護は行っているのか、サキシマスオウノキの板根はどうなっているのか、オニヒトデ及びマングースの駆除はどのような方法で行っているのか等、多岐に渡っての質問を受けました。

３日（火）は祝日のため研修は休み、翌日の４日（水）は、西表島の仲間川及び大富遊歩道を、ボート及び徒歩で移動しながらマングローブ等の植生について、また、南風見林木遺伝資源保存林のリュウキュウマツの施業経過や海岸の保安林の整備状況等について説明しました。

センター所長による説明

リュウキュウマツの施業方法を説明

保安林の整備状況を説明

講師・研修生一行

平成２１年１０月・１１月期ヒナイ川、西田川の利用状況調査報告

ヒナイ川の利用状況調査（毎月１回）を１０月９日（金）、１１月１３日（金）に、西田川の利用状況調査（２ヶ月に１回）を１０月２９日（木）にそれぞれ実施しました。

ヒナイ川では、１０月期はカヌーツアーが１２組（ガイド含め５１名）、レンタルツアーが１組（２名）合計１３組（５３名）、１１月期はカヌーツアー８組（ガイド含め３３名）でした。

西田川は、カヌーツアー２組（ガイド含め１１名）だけでした。

１１月期のヒナイ川の利用状況は３３名でしたが、過去４年間の冬場における月別１日当たりの平均利用者は、１１月３８名、１２月２６名、１月１７名、２月２４名となっており、夏場型の利用形態であることが分かります。

サンガラの滝
（西田川：１０月）

船着場
（ヒナイ川：１１月）

ヒナイ川、西田川で出会った生き物たち

コナカハグロトンボ
西田川（2008.6.10）

イリオモテモリバッタ
ヒナイ川（2009.05.13）

キノボリトカゲ
ヒナイ川（2009.09.11）

リュウキュウミスジ
西田川（2009.10.29）

漂流・漂着ゴミの実態調査（１１月分）

１１月期の漂流・漂着ゴミの実態調査を１１月９日（月）に実施しました。前月と比較し各調査地点ではゴミの漂着状況など特に目立った変化はありませんでしたが、今回は、壊れやすい蛍光管や裸電球の漂着をよく見かけました。台風の荒波に揉まれてどうして割れないのか不思議でなりません。

また、例年なら、この時期にゴバンノアシ（サガリバナ科）の種子がフィリピン方面から海岸に漂流してきますが、今年は未だ１個も見ることができません。フィリピンには今年相次いで台風が襲来しており、結実することができなかったことが予想されます。

打ち上げられた蛍光管
（2.5cm×1.2m）

ゴバンノアシの種子
（サガリバナ科）

森の巨人たち百選サキシマスオウノキ（仲間川）のモニタリングを実施

１１月１６日（月）、西表島東部の仲間川中流域に生育しているサキシマスオウノキのモニタリング（樹高、幹周り及び開空度の測定など）を実施しました。

当日は、クリスマスの頃まで鳴くというイワサキゼミの鳴き声に耳を傾けながら、観光客が訪れる合間をぬって調査を行いました。

昨年のような台風通過後の調査であれば、５月の測定値より開空度は減少傾向を示しますが、今年は大きな台風の襲来もなく、５月に計測した数値と大きな変化は見られませんでした。

一際目立つ森の巨人
サキシマスオウノキ

定点観測箇所の調査

訪れた観光客

木道周辺のモニタリングを実施

１１月１８日（水）、西表島の仲間川支流から西表亜熱帯樹木展示林に至る木道（１５０ｍ）の内、マングローブ林内に設置したモニタリング箇所の生育状況、地盤高及び開空度などの調査を実施しました。

この結果、今年４月の調査時と比較し、新たな枯損木や傾き木は確認されませんでしたが、オヒルギの稚樹は３本から１４１本に増加していることを確認しました。

また、地盤高については大きな変動は見られませんでしたが、開空度の平均数値が３８．３％から３１．１％となり、枝葉等の広がりが確認されたことは、台風等による影響が少なかったためと考えられます。

マングローブ林内の木道

モニタリングの様子

木道周辺に咲いていた
サガリバナの花

西表島の樹木

今回は、西表島の山地林などに生育している植物を紹介します。

タイワンオガタマ（モクレン科オガタマノキ属）

学名：*Michelia compressa ver. formosana*

分布／琉球南部、台湾

生育環境・形態など

花：2007.11.26（仲良川沿い）　葉：2007.04.21（西田川）

山地に生え、高さ１５m、径５０cm以上にも達する常緑の高木。葉は互生し、革質で厚く、長さ５～８cm、幅２～３cmと基本種のオガタマノキに比べ小さく区別されている。花は芳香があり、１２月～１月頃に黄白色で、中央部は紫紅色をおびた倒披針型で花被片の長さ約２０mm。オガタマは招霊のことといわれ、神事に用いられる。西表島では材がかたく貴重な建築材として用いられていた。

転出者のお知らせ

平成２１年１２月１日付けで１名が異動しました。

＊＊＊　お世話になりました　＊＊＊

元自然再生指導官　遠山　勝　（担当：森林環境教育）

転出先：九州森林管理局 沖縄森林管理署（沖縄県那覇市）　流域管理調整官

西表島は不思議が一杯でした。①マングローブはなぜ塩水でも育つの？②サキシマスオウノキの板根はなぜ大きいの？③一つの木になぜ花と実がついているの？④セミがなぜ正月頃まで鳴くの？⑤羽を持たないホタルがなぜいるの？⑥カンムリワシはなぜ電柱でじっとしているの？⑦イリオモテヤマネコの糞はあちこち見かけるがなぜ姿が見えないの？・・・等々を考えながら、西表島の大自然を満喫しながら楽しく過ごした２年８ヶ月でした。その間、ふれあいセンターで森林環境教育及びヒナイ川周辺の利用状況調査を主に担当しましたが、多くの皆様方にお世話になりました。ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。赴任先の沖縄森林管理署では署とふれあいセンター業務の連絡調整も執ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

ちなみに①～⑦までの「なぜ」の答えが分かりますか。私の答えは、「西表島だから」でした。西表島の大自然を大切に守りましょう。

「西表森林環境シンポジウム」開催予定のお知らせ

台風２０号の影響により延期となりました「西表森林環境シンポジウム」については、下記のとおり開催する予定です。

開催日　：平成２２年１月１６日（土）

開催時間：１３：３０～１７：００

開催場所：竹富町離島振興総合センター

関係者をはじめ、一般参加者の多数のご来場をお待ちしております。

林野庁　九州森林管理局　西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004　石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm